



No	① 交付対象事業の名称・施設の名称等	② 実績額 単位:円	③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)		④ 事業実施計画の申請時点での当初値	⑤ 実施計画の申請時点での目標値						⑥ 2020年度終了時点の目標値 実績値	⑦ 目標値未達の場合の理由			⑧ 自己評価		⑨ 外部有識者からの評価(案)		⑩ 今後の県の事業展開の方向性(暫定)					
			指標	単位		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2020年度終了時点の目標値 *開始前実績値+KPI増加分の合計		実績値	最も大きな理由	次に大きい理由	左記を選択した理由	事業効果	理由	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由			
						2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度															
6	優良種苗研究拠点整備(カラマツ)【林業試験場】 ・カラマツ挿木増殖のためのガラス温室新設	18,036,000	指標①	カラマツ苗木の生産額	千円	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	30,000.00	(2020)	30,000.00	0.00	③その他	①外的要因	カラマツ苗木は、通常種子から苗木を生産しているが、種子の確保は豊凶等外的要因に大きく左右される。近年、種子が確保されており、さし木による増殖に取り組む生産者がいなかったため、温室を使用した研究は実施したものの、生産額には結びつかなかった	③地方創生に効果があった	・種子の確保が難しい場合、さし木による増殖方法でカラマツ苗木の安定的な体制が確立されたため。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・安定的な苗木生産体制の確立により、最適な時期でのさし木が可能となることから事業の効果はあると伺える。 ・引き続き技術確立に向けた取組を進めていきたい。	⑤予定通り事業終了	・さし木による増殖方法は確立され、普及活動も一定の効果があった。なお、施設はコンテナを利用した育苗技術の確立に向けて活用する。		
7	繊維産業高度化のためのオープンイノベーション創出拠点整備【繊維工業試験場】 ・オープンイノベーションルーム等の整備 ・クリーンルームの新設整備	134,506,440	指標①	商品化件数	件	0	0	3	3	4	(2020)	10	10				・KPIを達成	①地方創生に効果があった	・オープンイノベーションルームを商品化会議等に利用した結果、指標①商品化件数は目標値に到達した。指標②特許等出願件数についても、クリーンルームを活用した共同研究による特許出願を行い、目標値に到達した。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・KPIを達成しており、事業の効果が認められる。 ・今後も両施設を有効に活用し、繊維産業の振興や地域経済の活性化に取り組んでいきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・2020年度も良好な実績となったことにより、今後も引き続きオープンイノベーションルーム及びクリーンルームを有効活用し、繊維産業の高度化を推進する。		
8	ぐんま県境稜線トレイル整備【ぐんま県境稜線トレイル】 ・未開通区間の測量 ・新たな登山道の整備	32,512,840	指標①	観光消費額	億円	1,844	18	19	19	20	19	(2020)	1,939	9月確定予定				①外的要因	・新型コロナウイルスの影響により、旅行者が減少したため。	③地方創生に効果があった	・KPIの目標値は達成していないが、稜線トレイルの利用者数は増加させることができた。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・コロナ禍により観光客全体が減少する中、稜線トレイル利用者数の増加したことにより一定の事業効果が伺える。 ・観光資源として更なる魅力向上につながる取組を推進していただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・稜線トレイル全体の安全対策を行いながら、更なるPRや誘客手法の検討を進める。
9	蚕糸絹業情報発信拠点整備【日本絹の里】 ・日本絹の里・ミュージアムショップ増設	81,681,352	指標①	ミュージアムショップ売上高	千円	15,000	0	5,000	10,000	10,000	10,000	(2020)	50,000	▲13,064				①外的要因	・新型コロナウイルスの影響により、一時期施設の利用を停止し、再開後も入館制限を行ったため。 ・売上の減少に伴い、取扱品目(在庫)の抑制を行ったため。	③地方創生に効果があった	・KPIの目標値は達成できていないが、純国産絹製品の販売等を通じて「絹の国ぐんま」の魅力発信につながった。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用の停止や、制限により売上高・来館者数が減少。 ・絹の魅力を伝える取組を実施していただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・今後も情報発信を通じ、純国産絹製品の販売等を行う拠点施設として利用者の増加を促進し、自立したミュージアムショップとして運営していく。
10	花と緑の観光拠点整備【ぐんまフラワーパーク】 ・フラワーステーション(花苗等販売・情報発信)の整備 ・軽食物販スタンドの整備	93,345,444	指標①	フラワーステーション及び軽食物販スタンドの売上高	千円	0	0	26,600	26,600	9,150	9,150	(2020)	71,500	19,385				③その他	・情報発信や県産品の販売等により、入園者数や売上の向上に努めたが目標値には達成しなかった。 ・外的要因としては、4～5月に新型コロナウイルス感染防止のため休園したことや、営業再開後も花火大会等の集客イベントを中止したことにより入園者数が前年比64%に減少、売上に影響を受けた。	③地方創生に効果があった	・目標値には達しなかったが、情報発信や県産品の販売など、地域の消費拡大、地域の活性化が図れた。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・目標達成に向けては、情報発信の強化が必要である。 ・地域の魅力を活用した取組を推進していただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・今後、更なる商品開発や農産物・物産品の取組などに取り組み、更なる来園者増と地域の魅力の向上、発信など地域の活性化を促進していく。
11	リンゴ研究拠点整備【中山間地園芸研究センター】 ・効率的なリンゴ新品種選抜の為に果樹育成圃	2,779,455	指標①	リンゴ販売金額	万円	311,320	1,410	1,410	1,410	1,448	1,410	(2020)	318,408	213,035				①外的要因	・近年の生産環境の急激な変化により病害虫(主にカメムシ類)が多発し、リンゴの可販収量が減少、販売金額の低下に繋がった。県産品種の導入割合は国庫事業等による改植がすすんでいるものの伸び悩んでいる状況である。	③地方創生に効果があった	・KPIの目標値は達成できていないが、本事業を実施したことで、新品種「紅鶴」を中心とした生産販売振興が関係機関の連携のもとに行われ、新植や品種更新の機運が高まっている。県産品種の割合は目標値の約9割である。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・新品種の生産販売振興による品種改新の機運上昇や、県産品種割合が目標値の約9割であるなど、事業の一定の効果は認められる。 ・県産品の普及に引き続き取り組んでいきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・果樹経営支援対策事業による県産品種への更新をすすめることと併せて、県オリジナル品種の品種登録、普及にむけ調査を継続する。

No	① 交付対象事業の名称・施設の名称等	② 実績額 単位:円	③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)		④ 事業実施計画の申請時点での当初値	⑤ 実施計画の申請時点での目標値						⑥ 2020年度終了時点の目標値 *開始前実績値+KPI増加分の合計	⑦ 実績値	⑧ 目標値未達の場合の理由			⑨ 自己評価		⑩ 外部有識者からの評価(案)		⑪ 今後の県の事業展開の方向性(暫定)	
			指標	単位		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	最も大きな理由			次に大きい理由	左記を選択した理由	事業効果	理由	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
						2020年度	2020年度	2020年度														
12	コンニャク研究拠点整備【こんにゃく特産研究センター】 ・耐病性品種選抜用温室の整備	9,730,476	指標①	こんにゃくいもの販売額	万円	922,645	61,668	35,678	35,678	35,678	0	(2020) 1,091,347	638,042	①外的要因 ③その他	・こんにゃくいもの販売単価は年次により変動が大きいため、販売額が減少したものと考えられた。	③地方創生に効果があった	・KPIの目標値は達成できていないが本事業を実施したこと、指標②及び指標③は、微増ないし横ばいであり、地方創生には効果があった。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・大規模農家数は当初値と比べ、微増となっている。また、出荷面積については目標値を達成しており、一定の効果が認められる。 ・本施設を活用し品質向上に向けた取組を着実に推進していただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・コロナ・人口減少等による消費低迷傾向があり、その低迷傾向を脱するためにも事業の継続が必要であり、特性調査、品種選抜を継続して実施していく。	
			指標②	コンニャク栽培面積5ha以上の農家数	戸	168	33	33	33	33	5	(2020) 305	177									
			指標③	コンニャク栽培面積に占める出荷面積の割合	%	57.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	(2020) 60.0	60.1									
13	蚕糸研究拠点整備【蚕糸技術センター】 ・GM蚕育蚕室整備 ・GM蚕種製造施設整備	29,154,708	指標①	遺伝子組換えカイコ(高機能シルク)繭の販売額	千円	2,408	792	2,400	6,400	8,000	0	(2020) 20,000	0	①外的要因	・指標①については、企業での製品開発が進まず、農家での繭生産を見送ったため。 ・指標②については、高齢の養蚕農家において飼育規模の拡大が図れないため。	③地方創生に効果があった	・KPIの目標値を達成した指標もあり、養蚕業の維持・継承に一定の効果があったため。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・目標値を達成したKPIもあり、一定の効果は認められる。 ・さらなる研究体制を強化し、販売額や生産量の増加に取り組んでいただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・組換えシルクの試作品製作による需要喚起、新規養蚕参入者の飼育規模拡大を進め、繭生産量を維持する。	
			指標②	養蚕経営体一戸あたり繭生産量	kg	346	34	20	50	50	0	(2020) 500	349									
			指標③	群馬オリジナル蚕品種等普及率	%	53.0	4.0	3.0	3.0	2.0	0.0	(2020) 65.0	69.0									
14	交流拠点整備(ぐんまこどもの国児童会館) 【ぐんまこどもの国児童館】 ・プラネタリウムのマルチ交流スペース化	20,031,840	指標①	マルチ交流スペース(プラネタリウム)観覧料収入	千円	3,648	0	30	50	50	50	(2020) 3,828	1,224	①外的要因	・新型コロナウイルスの影響により、令和2年3月2日から6月1日まで施設の利用を停止したほか、その後も入館者数に上限を設けたため。	③地方創生に効果があった	・目標値は達成できていないが、本事業を実施したことにより、車椅子等でのプラネタリウム鑑賞に加え、マルチ交流スペースを活用したプログラムの実施により、利用者の増加に一定の効果があったため。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・KPIは未達であるが、マルチ交流スペースの整備により施設の魅力向上に一定の効果があったと認められる。 ・利用者のニーズを把握し、マルチ交流スペースを含め施設全体の満足度向上に向けた取組を推進していただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・マルチ交流スペースを活用した優良なプログラムの企画により、施設の集客の柱として利用者の増加に向けた取組を継続していく。	
			指標②	マルチ交流スペース(プラネタリウム)観覧者数	人	41,250	0	200	500	500	500	(2020) 42,950	10,984									
			指標③	来館者数	人	349,739	0	5,000	5,000	5,000	5,000	(2020) 369,739	50,757									

地方創生拠点整備交付金に係る事業評価について  
(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

【国H29補正予算事業】

No	① 交付対象事業の名称	② 実績額 (総事業費) 単位:円	③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)		④ 事業実施計画 の申請時点での 当初値	⑤ 実施計画の申請時点での目標値				⑥ 実績値	⑦ 目標値未達の場合の理由			⑧ 自己評価		⑨ 外部有識者からの評価(案)		⑩ 今後の事業展開の方向性(暫定)		
			指標	単位		2018年度	2019年度	2020年度	2020年度終了時点の目標値 * 開始前実績値+KPI増加分 の合計		最大の理由	次に大きい理由	左記を選択した理由	事業効果	理由	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
						2018年度	2019年度	2020年度												
1	群馬県産材を利用した高次加工構材技術開発拠点整備 【林業試験場木材加工技術センター】 ・木材加工技術センター整備	68,368,000	指標① 県産人工乾燥材生産量	千m <sup>3</sup>	39.0	0.0	1.0	1.0	(2020)	41.0	36.8	④不明	④不明	・県産人工乾燥材生産量は、需給動向等の要因によって増減すると考えられる。2019年度終了時の実績値は41.7千m <sup>3</sup> であり、目標値を上回っていることからこの傾向が伺える。	③地方創生に効果があった	・本事業を実施したことで、主に県内企業の研究開発支援を実施することができた。また、試験材の材料を供給する県内企業への支援を行うことができた。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・一部KPIは目標値を達成するなど、一定の事業効果は認められる。 ・継続した研究開発支援を通じ、県産材の需要拡大につながる取組を推進していただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・今後も県内企業への研究開発支援を実施していく。
			指標② 住宅・木材分野における研究開発支援件数	件	1	0	1	1	(2020)	3	3									
2	「ぐんまのアユ」復活に向けた冷水病耐性アユ「江戸川系」生産拠点整備【水産試験場】 ・アユ屋内飼育棟施設整備 ・飼料培養棟施設整備	34,477,864	指標① 江戸川系種苗の利用率	%	9.26	0.00	29.99	7.63	(2020)	46.88	69.1	・KPIを達成	①地方創生に非常に効果的であった	・江戸川系種苗の利用率は、施設の整備を実施したことで種苗の生産効率が上がり、目標値を上回る値となった。アユの遊漁者も目標値を上回る値となった。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・いずれのKPIも目標値を達成しており、施設整備の効果が十分認められる。 ・種苗生産効率のさらなる向上に向けた取組を推進していただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・冷水病耐性の強い江戸川系種苗の利用は、河川における冷水病の発生を抑制することができ、アユの遊漁者の増加や地域振興に役立つため、事業を継続する。		
			指標② アユ遊漁者の増加	人	33,200	0	800	700	(2020)	34,700	36,045									
3	ぐんまイノベーションファーム(次世代型園芸施設)整備事業 【県立農林大学校】 ・環境制御装置を備えた野菜・花き・果樹栽培温室の整備	132,791,399	指標① 農業産出額(キュウリ、イチゴ、切バラ)	億円	155	0	3	3	(2020)	161	2022年3月公表予定	③その他	③その他	・2020年の農業産出額は、2022年3月に公表される予定。(2019年実績は、169億円) ・新規就農者数は、社会情勢の影響を受け、年により若干変動しており、H30年度は215人、R1年度170人、R2年度は173人であった。	②地方創生に相当程度効果があった	・本事業では、最先端の環境制御技術を導入し、人材育成とともに県内農業者への普及推進拠点として、農業技術センターや関係団体とも連携し、生産性の向上に取り組んでいる。 ・施設整備後の視察者は、県内生産者を中心に587名となっており、関心の高さがうかがえる。また、施設野菜及び花きにおける環境制御技術導入農家戸数は、H30年度に73戸だったものが、R2年度には、124戸まで増加しており、産出額の拡大に貢献している。 ・このような魅力ある農業の発信により、野菜及び花き・果樹コースにおいても変わる。農林大学校で、先進の施設で技術を実践できることは、将来の農業者育成上、特に重要である。新規就農者支援について引き続き充実を図っていただきたい。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標①については未公表であるも、前年実績を鑑みると、目標値を上回る可能性がある。 ・指標②については、雇用環境等による社会情勢に影響される面があるものの、本事業による整備により魅力ある農業を発信したことにより、野菜及び花き・果樹コースの定員に対する充足率が上昇し、また県外からの入校生が増加しつつあるなど、一定の効果があると認められる。 ・新規就農者数は社会・経済情勢によっても変わる。農林大学校で、先進の施設で技術を実践できることは、将来の農業者育成上、特に重要である。新規就農者支援について引き続き充実を図っていただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・引き続き、環境制御技術の習得及び普及の場として、本校の学生指導のみならず、県内生産者へも広く公開し、新規就農者の確保はじめ、本県農業の発展に役立てる。
			指標② 年間新規就農者数(45歳未満)	人	196	0	10	10	(2020)	216	173									
4	ものづくり産業高度化のためのイノベーション拠点整備 【産業技術センター】 ・高精度測定室整備 ・新素材開発・分析ラボ整備 ・電波暗室整備	572,990,876	指標① 産業技術センター利用企業の経済効果	百万円	5,277	0	256	256	(2020)	5,789	5044	①外的要因	③その他	・KPI①利用企業の経済効果:新型コロナウイルスによる企業の経営状況悪化等の影響が考えられる。 ・③技術相談件数:新型コロナウイルスの影響により、センターの利用制限(機器開放中止や来所制限等)を行ったため。	②地方創生に相当程度効果があった	・KPI②依頼試験等収入は、目標値を達成した。KPI①③は目標値を上回ることはなかったものの、9割程度達成している。 ・新型コロナウイルスの影響で、センターの利用制限や手数料減免等を実施した中でも、整備した施設・機器を活用して企業への支援を継続し、収入額の目標値は達成しており、相当程度の効果があった。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・指標②については目標値を達成している。指標①と③においても目標値の約9割を達成しており一定の効果は認められる。 ・技術支援を通して、相談が企業の経済効果に結びつく取組を推進していただきたい。	⑤予定通り事業終了	・本事業による施設・機器整備はH30年度内に完了しており、整備事業としては終了。 ・今後も整備した施設、機器を活用して技術支援を行うことで、地域企業における技術支援拠点として、地域産業の発展に寄与していく。
			指標② 産業技術センター依頼試験等収入額	百万円	160	0	7	7	(2020)	174	183									
			指標③ 産業技術センター技術相談件数	件	21,000	0	250	250	(2020)	21,500	19,475									
5	養蚕業活性化に向けた養蚕人工飼料製造及び周年養蚕研究拠点整備 【群馬県稚蚕人工飼料センター】 ・桑葉乾燥粉末調整施設整備 ・人工飼料湿体調整施設整備 ・クリーンルーム整備	292,875,000	指標① 繭1,000kgあたりの生産コスト削減	円	4,041,000	0	0	-44,100	(2020)	3,996,900	4,041,000	①外的要因	③地方創生に効果があった	・指標①については、繭生産コスト削減のため、低コスト人工飼料の開発を実施中。 ・指標③については、企業での製品開発が進まず、高機能シルクを生産するGMカイコの飼育が実施されなかったため。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・実用飼育可能なGMカイコ品種数の増加により、飼育量、繭生産量の拡大が期待できる。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・繭生産コストの削減や付加価値の高い繭生産のため、低コスト人工飼料の開発とGMカイコの飼育拡大に向けた取組を実施していく。		
			指標② 実用飼育用GMカイコ作出数	種	0	0	0	1	(2020)	1	4									
			指標③ GMカイコ繭生産量	kg	176.00	100.00	200.00	400.00	(2020)	876.00	46.6									
6	地域資源を守る野生鳥獣捕獲の担い手確保拠点整備 【クレー射撃場への併設】 ・大口径ライフル射撃施設整備	241,111,000	指標① 銃器によるシカ・イノシシ捕獲頭数	頭	7,257	0	60	360	(2020)	7,677	4,147	③その他	③その他	・ライフル射撃場が供用開始しておらず、効果の評価はできない。	③地方創生に効果があった	・ライフル射撃場が供用開始しておらず、現時点での効果の評価はできないが、供用開始すれば、捕獲の担い手の育成拠点として、今後の効果が期待される。	(本事業が地方版)総合戦略のKPI達成に有効であった	・施設整備は計画どおり完了している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、当初計画と比べ本格稼働の時期が遅れているものの、今後は本施設を活用して、担い手育成に取り組んでいただきたい。	③事業の継続(事業変更を伴わない継続)	・今後もライフル射撃場の早期利用開始に向け、必要な手続きを進めていく。
			指標② 農林業被害額軽減	千円	609,933	0	-3,000	-31,200	(2020)	575,733	559,405									
			指標③ 尾瀬国立公園入山者数	人	284,390	0	0	4,120	(2020)	288,510	106,922									



